

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900833		
法人名	有限会社 かじかわ		
事業所名	グループホーム めぐみの里 (1号館・2号館)		
所在地	〒825-0004 福岡県田川市夏吉364番地	Tel 0947-45-2409	
自己評価作成日	令和05年08月27日	評価結果確定日	令和05年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和05年09月19日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループの家庭的なふんいきが利用者にゆとりとやすらぎを与え、なごやかな日々をすごしています。今後も今の状態を維持し、工夫し、生活意欲を皆が持てるよう、日々努力していきます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田川市郊外の木々に囲まれた見晴らしの良い丘の上に21年前に開設した定員18名のグループホームである。利用者や家族の希望を優先したかかりつけ医の受診を支援し、通院が困難になった時点でホーム協力医の往診に切り替えている。看護師を2名配置し、介護職員との連携で24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制の下、看取り支援も行っている。代表の地元である強みを活かし、運営推進会議への参加や利用者の紹介等、地域の協力も大きい。職員が作る家庭的で美味しい料理を提供し、赤飯やちらし寿司で祝う誕生会や弁当持参のお花見等は利用者の楽しみである。ホーム内は清掃が行き届き、明るく清潔なりビングルームでは、貼り絵や塗り絵、オセロ、編み物等、利用者は自由にのびのびと過ごしている。職員同士仲が良く、思いやり、助け合ってチーム介護に取り組み、家庭的な雰囲気の中で、その人らしくゆったりとした暮らしを支える温かなケアに、利用者や家族からの信頼も厚い、グループホーム「めぐみの里」である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	4. ほとんど掴んでいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度ある			<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度
		<input type="radio"/>	3. たまにある			<input type="radio"/>	3. たまに
		<input type="radio"/>	4. ほとんどない			<input type="radio"/>	4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. あまり増えていない
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が			<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を普段から見える所に提示し、職員は利用者の意見を尊重しながら理念に沿った支援を提供できるようにしている	ホーム独自の理念を見やすい場所に掲示し、ミーティング等の機会に、理念に沿ったケアが出来ているかを振り返り、共有に努めている。職員は、ゆとりを持って利用者に寄り添い、家庭的で温かいケアをいつも心がけ、利用者本位の介護サービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事は地域住民に参加を呼びかけていたがコロナの影響で外部の参加ができておらず行事などの交流が持てていない	代表の自宅跡地に開設して21年目を迎え、日頃から地域住民から多くの協力を得ている。ホームの夏祭りや運動会には家族や地域の皆さんに案内しているが、現在はコロナ禍で自粛している。自治会に加入し、地域の商店で買い物したり、ホーム前のコンビニエンスストアや郵便局へ出かけて顔見知りになる等、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの福祉系の高等学校から実習生を毎年受け入れている。地域の認知症の高齢者の状況は運営会議などで話し合っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営会議を開催し状況、活動を報告し助言をもらっている。意見をいただき実行出来る様に検討している	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、ホームの運営状況や行事報告を行い、参加委員からは質問や意見、要望、情報提供を受ける等、活発な意見交換が行われている。会議で出された意見や提案は検討し、出来る事からホーム運営や業務改善に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加もあり市の介護保険関係など職員等連絡を取ったり情報交換する等協力関係を築いている	管理者は、ホームの空き状況や事故の報告を行政担当窓口に行い、疑問点や困難事例を相談する等、行政と連携を図っている。また、運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や取り組みの理解を得て、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みについては職員研修を行い全職員に理解を求めている。必要な拘束となりうるものに関しては個別に同意をもらい対応している	2ヶ月毎に開催する運営推進会議の中で身体拘束についての報告を行っている。毎月ミーティングを開催し、年2回以上身体拘束について学ぶ機会を設けている。拘束となる具体的な事例を挙げて検証することで職員の意識づけを行い、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で研修を行っている。虐待になるような行為行動がないか管理者や職員間でお互いに注意しながら取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しての研修をしたり権利擁護に関する資料を実務を通して学んでいる所です。必要性の高い利用者については協議し検討していくようにしている	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、内部研修会で学ぶ機会を設けている。以前、制度を活用している利用者がいたので、後見人とのやり取りを通じて制度の理解を深めている。制度についての資料を用意し、利用者や家族から相談があれば、内容や申請方法を説明し、関係機関を紹介出来る体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居に関して意向を伺うと共に生活していくにあたっての不安や疑問も訪ねている。改定がある時は書面で説明するとともに再度説明を加えて理解を得るようにしている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は家族や利用者とは話す機会を持ち意見を聞くようにしている。施設長と意見交換し事業所全体の運営に反映させていくよう取り組んでいる	コロナ禍で直接会う機会は減っているが、状況を見ながら現在は制限を緩和し、玄関で短い時間での面会を可能としている。面会時や電話等で家族の意見や要望を聴き取り、運営に反映させている。毎月、写真と個別のコメント入りの「苑だより」を送付し、家族の安心と喜びに繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや毎日の申し送りなどで職員からの意見がある時は管理者が聞き取り必要に応じて施設長とも協議して反映していくように努めている	ミーティングは、月1回、ユニット毎にその日の出勤者が参加して行い、カンファレンスや研修も兼ねて実施している。欠席者は、会議議事録に目を通して内容を確認している。朝夕の申し送り時や昼の休憩時間に、職員の気付きや意見、心配な事等を話し合い、解決に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の勤務の実績を勤続年数等を考慮して給与設定している。労働時間や休みの希望等ではできるだけ応じ働きやすい職場であるよう努力している		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別や年齢の条件はなく経験が無い方でも介護を頑張りたいと言う意欲を大切にし更なる資格取得にも協力している	職員の希望休の確保やそれぞれの事情を汲んだ勤務時間に配慮する等、働きやすい職場環境である。職員間のチームワークも良く、思い合い、助け合える関係である。資格取得も奨励し、職員が向上心を持って働けるよう支援している。職員の募集は、年齢や性別、経験の制限はなく、人柄や介護に対する考え等を優先して採用している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権や身体拘束排除についてや虐待防止等の研修を取り入れている	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、身体拘束の職員研修を定期的実施し、利用者の尊厳を尊重した暮らしの支援に取り組んでいる。また、「グループホーム利用者の権利」を掲示して、職員の意識づけを行い、言葉遣いや対応にも注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務を見る事で力量を確認し上を目指している職員に対しては資格取得のための研修の参加を促して勤務調整をしたりと対応している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の協会等へ参加し勉強会等の案内も届き仕事の質の向上に意見交換等しています		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や訪問、入居時の聞き取りの際、本人と話し不安等を聞き入れるようにしている。安心できるようにこまめに話しかけるよう努める		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族に利用の際にしての意向を聞き、入居してから意向や希望を聞き取りながら、良い関係を築いていけるよう努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の意向や、利用者の状態がグループホームに適しているかを確認し職員管理者等で先の対応について検討していくよう努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はしていただくという方針。掃除や衣類整理、洗濯の量、その人が出来る事は職員と一緒に行うように家庭的な環境の中にいるような感じで過ごせるように努めている		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に状況報告をしたり対応に関しては協力を得ながら一緒に支援していけるよう遠方の方には月1回苑だよりで状況報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院や外出の際になじみの場所近くを通ったりすることがある。前住んでいたところの近所の方等昔のなじみの人の面会は増えている	コロナ対策以前は、近隣からの入居利用者が多いので、家族以外にも親戚、友人、知人の面会が多く、面会時には、ゆっくり過ごせる場所を提供し、また来て頂ける様に声掛けしていた。現在は、玄関内で10分から15分程度の面会をお願いし、話をしたり写真を撮ったりして、互いに再会を喜ばれている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居の際に利用者の性格や状態を把握して1号館や2号館のどちらに合うか検討して入居していただく事もある。職員が居室にお邪魔して声をかけるなど孤立しないようにしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院になった場合はお見舞いに行き亡くなられた時は通夜や葬儀に出席している。その後の経過、フォローや家族の方のフォローを行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から意向や希望を聞くことが困難な場合は家族から意向を聞き生活の中の様子から検討している	日々関わる中で、職員は利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報を共有し、介護サービスに反映させている。意向表出が困難な利用者については、家族や関係者に相談して情報を得ながら、職員が利用者に寄り添い、その表情や仕草から思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や生活環境について聞き取りをしそれまでの生活で利用していたサービスを確認しその状況も把握するようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況の排泄、食事、睡眠等を見ながらそれぞれの状態や有する力について把握するように努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては家族からの情報交換や毎月のミーティング及び毎日の申し送り日々の状況を聞き検討して計画に反映している	職員は、利用者や家族の意見、要望、心配な事等を聴き取り、毎日の申し送りや毎月のミーティングの中で、職員の意見や気づき、提案等を出し合って検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。入退院等、利用者の状態に変化があった時には、1～3ヶ月毎に介護計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は職員が個別の管理張で記録支援経過を記録し全職員がその記録をきちんと読んで申し送りも聞き漏れの無い様に取り組んでいる		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、個別に希望される要求に対して施設長の判断で対応可能であるものに関しては応じるようにしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域の中で安心して生活を送っていく事ができるように努めている。近くの店の顔見知りになり声を掛け合えるよう支援している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本的に入居時に希望される病院や、これまでにかかっていた病院に継続して受診をしていくようにしている	利用者や家族の希望を優先して、入居前のかかりつけ医の受診を支援している。家族同行をお願いし、医師の話を直接聞いてもらい、帰りにドライブを楽しむ等、利用者や家族の大切な時間になっている。通院が困難になった場合は、協力医療機関の医師による往診に切り替え、家族の負担軽減に取り組んでいる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は毎日の介護の中で心身の状況を観察し看護的に必要な状況であれば看護師やかかりつけ医療機関に連絡して必要な医療が受けられるようにしている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院するとコロナ感染が多い年は家族の方だけしかお見舞いに行けない時があり家族に回復状況を確認している		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての話は入居時に説明し、意向を聞くようにしている。終末期の希望確認もとりそれに合わせた対応を行っていくようにしている	契約時に、重度化や終末期に向けた方針について、利用者や家族に説明し、看取りについての希望を尋ねている。利用者の重度化に合わせて家族と密に話し合い、家族の希望を再度確認し、主治医や訪問看護師、ホーム看護師、介護職員が連携しながら方針を共有し、これまで多くの看取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応は社内の研修を通して備えている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練、避難訓練は年2回行っている。職員の連絡網を整備し近くの職員は緊急時に援助できるように行っている	非常災害訓練を年2回実施し、1回は消防署の参加を得ている。夜間想定訓練では、近くに住む職員の非常時の対応の確認と連絡網の中に地域住民の連絡先を記載し、緊急時の協力をお願いしている。また、非常災害に備えて、飲料水や非常食等も備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、利用者のプライドを傷つけないよう見守りを行っている。支援の際にも相手を傷つけないような対応を心掛けている	利用者の人格を尊重する介護サービスについて、ミーティングや申し送り時に話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスを目指している。また、利用者が部屋で自由に過ごしたり、仲良しの利用者と居室を行き来して過ごす等、利用者一人ひとりのプライバシーを尊重しながら、一人ひとりに合わせた暮らしの支援に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の私物の片付けなどの場面では本人の意向を聞きながら整理をし食事やおやつなども利用者の意見を取り入れ食の楽しみも持たせていただく		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間は基本的に決めていてそれ以外の時間は本人の自由に参加してもらうようにしている一人一人のペースを尊重しそれぞれ過ごせるよう支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の購入時には自分で柄などを選んで購入している。外出時の際も職員と相談しながら服を決める。ブラシや鏡を使用している方もいる		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理自体は一緒に行っていないが準備や片付けを出来る方が少ないが出来る方には時々手伝ってもらっている	利用者が楽しみにしている食事は、職員が利用者の食べたい物を尋ねながら、旬の食材を使った手作りの美味しい料理を提供している。雑祭を赤飯で祝ったり、誕生会では希望に応じてちらし寿司を作ったり、弁当を作って花見をする等、食を大切に支援に取り組んでいる。ホットケーキを焼いて利用者好きなものを乗せて食べてもらうおやつ時間も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態はその方の状態に応じて検討している。食事からの栄養摂取が困難な方へは補助食品も活用している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後出来る方は自分で歯磨きされる毎食できない方も夕食後だけは職員がついて歯磨きをする。口腔内の確認をして痛み出血、入れ歯の不具合なども見て必要があれば歯科往診をしている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの声掛けをして日中は出来るだけトイレで排泄ができるように、時間ごとに排泄をしている。車椅子が多くオムツが多くなっている。午前、午後時間を決め取り替えるようにしている	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は、利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、車椅子の方やオムツ使用の方も日中はトイレ誘導を行っている。利用者の状況を観察しながら、失禁が無い場合は布パンツに替えてみる等柔軟に対応し、利用者の自信回復に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の便秘の状態を確認して担当医と相談しながら薬の相談をして、その状況に合わせた対応をしている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏、冬と決まった曜日で入浴を行っている。入浴時に体調が悪く入れなかった場合は別の日に準備しその他、入浴したい人がいれば応じている	週2回の入浴を基本とし、利用者の希望と体調を配慮しながら、気持ちよく入浴が出来るよう支援に努めている。入浴は利用者と職員がゆっくり会話出来る大切な時間と捉え、コミュニケーションを図りながら、利用者の思いや意向を聴き出している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気候に合わせて空調の調節や寝具、衣類の調節をして快適に睡眠がとれるよう努めている。褥瘡の予防が必要な方はエアマットの使用を勧めている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をよく読んで作用、副作用、用量等の理解に努めている。変更時は特に観察に努め、症状に変化に注意し問題あれば受診や問い合わせをしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の活動、時間にゲームや歌、塗り絵、パズルなど個々が出来る活動をしている。ラジオ体操や嚙下体操等職員と一緒に楽しんでいる		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染で外出が出来ない日が続いたが少しずつ利用者の要望を聞き一緒に出掛けるように日々声掛けしている	コロナ対策以前は、梅や桜等、季節の花見を兼ねたドライブに出かけ、気分転換を図っていた。現在は、天気の良い日は苑庭に出て、外気浴やティータイムを楽しんでいる。また、病院受診の帰りにドライブや買い物をする事も利用者の気分転換になっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を手元に持ちたい方はいるが、盗られ妄想もみられる為施設や家族等に所持してもらい何か買い物があれば職員と一緒にいる		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば電話や手紙などが出せるよう取り組んでいる		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけをして季節感を出したり貼り絵を職員と一緒に壁に貼ったり楽しんで頂いている。玄関には花や植木など置いて心地よい空間になるように努めている	ホームが高台にあるので、風が通る明るいリビングルームでは、テーブルを囲んで、季節の貼り絵や飾り物を制作したり、職員相手にゲームや体操を楽しんだり、それぞれが自由に過ごしている。玄関前の花壇の手入れ、室内の清掃等も行き届き、清潔で気持ちの良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席はここだと思っており合同して活動する時など気の合うもの同士など配慮して場所を変えたり席を移る事で他者と話が出来たりしている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものがあると安心できるもの自分で制作した塗り絵などを貼ったりして居心地よい空間にしている	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの家具や身の回りの物を沢山持ち込んでもらい、利用者が自分の部屋に愛着を持ち、安心して暮らせるように配慮している。利用者が安心して過ごす事が出来るよう配慮している。室内は清掃が行き届き、換気にも注意して、明るくて居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態によってわかる事は変わってくるが日常生活動作が安全に行えるように整理し居室やトイレの場所が分かり自力で行けるようにしている		